

第44回環境安全委員会 議事要旨（案）

1. 開催日時 2021年4月5日（月）15:00～17:00
2. 開催場所 東陽セントラル 2階会議室
3. 出席者 中杉委員長、佐古委員、村山委員、森口委員、馬締委員、増田委員、
榎本委員、板津委員、干泥委員、瀧澤委員、風祭委員、浅沼委員
（環境省）切川課長補佐、橋爪課長補佐（順不同）
4. 議 事（公 開）

【議題1】2020年度下期の操業状況

資料1に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 昨年度、事故が起こったのですが、かなり影響があったことは確かなのですが、一応長期の計画を見てみると、コンデンサーについて今年度中に終わるべきところを来年度に延びてしまうことになるということが一つあるのですが、1年余裕を取っているところでは済ますことができそうだというのが全体の御説明だったように思います。

○委員 先ほど委員長からも御発言のあった事故のことです。資料1の別紙の4の別紙という最終報告の概要版の中で「トラブルの概要」の（1）トラブルの概要というところで、下のほうに、換気出口排気及び排水のPCB濃度は協定値を満足し、環境への影響はないと書いてあります。結果的には環境への影響がなかったということで、これは事故があつて少し計画が後ろ倒しになったことはありますが、この点は幸いであつたかなと思います。ただ、これがいつの時点で確認されたのか、さらにそれが地元にもどのように伝わったのか、先ほどの御説明ではよく分からなかったもので、どういう時点でこの環境への影響がなかったということが判明したのか、それが地元にもどのように伝えられたのかということについて確認をさせてください。

●JESCO まず、環境への影響につきましては、当日（3）で発生場所、反応塔室、それから、熱交換器室とありまして、まずこの作業環境濃度を測定して、作業環境基準以下であるということを確認いたしました。それから、同じこの発生した日に建物からの換気、ここのサンプリングをいたしまして、これについても排気の基準以下であることを確認させていただいております。

それから、周知に関しましては、今の結果につきましては環境安全委員会の皆様のほうには速報という形で御報告させていただきました。それから、この事案の公表につきましては、今日の資料の一番後ろのほうに事業所だよりというものが、その他資料2というところでついでございます。こちらのほうで、これも速報ベースではありますがけれども、このその他資料2、No.63の裏側、トラブル報告ということで、2のほうで水熱分会設備No.1反応器系統、補助反応管出口のところで、これはホームページのほうで公表してございます。ということで、こちらで周知をさせていただいたところでございます。

●JESCO いつ測定したかについては、蒸気漏れのときに速やかに作業環境、同時刻に測っております。また、作業環境というのはプラントの作業するエリアなのですけれども、それが排気設備というのに導かれまして、活性炭を処理して建屋の外に出ます。その両方を同時に測定して、異常のないことを確認しております。

○委員 環境安全委員会というのは地元の方も含めてということですよ。ということでよろしいでしょうか。ちょっとこの資料だけだとそれが読めないの、きちんとその点については書いて

ていただいているのでしょうか。資料の中で、やはり地元はどう伝わったのかというのをきちんと記載をしていただいたほうが、今後のためでもあると思います。ぜひそこはよろしく願いいたします。

○委員長 そこは事務局のほうで少し手直しをして、委員の先生方に後でお配りいただくようにしてください。

●JESCO 承知いたしました。今、委員のほうからございました点、まず、対外対応につきましては、資料1の別紙の4の別紙のところに「2. 対外対応」とありまして、こちらに東京事業部会、環境安全委員会委員へ御報告させていただきましたというこの記載をさせていただき、あと、関係行政さんのほうへの連絡について記載させていただきました。

それから、先ほど事業所だよりをホームページで公表したということについては、ちょっとここではちゃんと説明していませんでしたので、そういうところも含めて記載を追加していければと思っております。

○委員長 委員が言われたのは環境影響の部分だったと思うのですが、モニタリングされたということは分かるのですけれども、どのタイミングでモニタリングをしているのかということをやちゃんと記録しないと、この事故の場合はあまり爆発事故みたいなことでは必ずしもなかったのですが、一過性でどんどん濃度が下がったときに当たっているということではないのだろうと思うのですが、ここら辺の情報もきっちり整理をしていただいたほうがいいのかなと思いますので、それらも踏まえてどうモニタリングをして、どこを確認した、どの時点でどう確認したかということをお説明いただく資料を用意して、後でお送りいただければと思います。そうすれば納得していただけるのかなと思います。

●JESCO 承知いたしました。

【議題2】2020年度 東京PCB処理事業所 長期処理計画（改訂版）

資料2に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 今の御説明について御意見・御質問等をいただければ、全体のトータルのものについて資料1のほうで年度計画を説明いただき、その中身を細かく御説明いただいたのかと思います。

○委員 特に資料2、今、御説明いただいたことに関連してなのですが、冒頭の取締役の御挨拶、あるいは資料1の昨年度下期の操業状況の中では、コロナの影響がないわけではないけれども、処理自身は進めておられ、従業員さんにも感染がないということだったのですけれども、未登録の把握とか、いわゆる掘り起こしなどに関して、そういうことに関してコロナの影響が及ばないのかどうかというのはちょっと気になる点でございまして、もう1年あまり、今日のこのオンライン会議も含めて、新しい日常の中での仕事のやり方の中にそれぞれ慣れてきているわけですが、やはり圧倒的に感じますのは、やはり現場に行って何かいろいろ確認をするとか、そういう出ていく機会が非常に限られておりまして、そういった点で、やはり現場に行って確認をするとか、やはり向かい合った上でしっかりとものを確認していくということの仕事が非常にやりにくい状況になっているのかなという点をちょっと危惧しております。

そういった点で、掘り起こしの的なものが当初より遅れていないのか、あるいはコロナが落ち着いたらやろうと思って先延ばしになっているというようなことがないのかどうか、なかなかまだいつまで続くか予断を許さない状況かと思っておりますので、そういった点において、このウィズコロ

ナの中で、この処理事業をある時期までに終えなければいけないということの中で、将来に向けた確認作業といいますか、そういったところに遅延を生じていないかどうかという点において、そういったところについて対応をお取りになっているかどうかという点について、御説明をお願いできればと思います。

○委員長 今、JESCOも掘り起こしの作業を各自治体と一緒にやられておられるので、実態的に分かっていると思われますので御説明をいただけますか。

●JESCO 掘り起こしの状況について御報告させていただきます。従来ですと、保管者については全体の説明会という形で対応しておりましたが、今現在は保管者の数がかなり減っております。実際、今残っている方々というのはコロナの影響もある中ではあるのですが、個別訪問という形で対応させていただいております。実際、個別に訪問させていただいて一人一人の方に御説明をし、場合によっては御説得をさせていただいて処理を進めていくという状況になっています。特に説得を有する場面については、JESCOだけの力では何ともならない部分については自治体様の御協力をいただいて、支援をいただきながら対応しているという状況になっています。

コロナの影響の関係でございますけれども、国のほうから中小軽減の制度ございましてコロナの助成金の追加助成という制度があります。これは前年度の3月31日、ですから2週間ぐらい前に期限を迎えたのですけれども、このタイミングに合わせて追加助成がございましたので、今までですと中小の方ですと70%補助であったものが90%、個人の方ですと90%補助というものが99%という形で上乗せの補助がございましたので、なかなか処理が進まない方々については、この助成金の説明をかなり強力に皆さん方にお話をさせていただいて、この機会を逃すとまたやりにくくなりますよというお話をさせていただいて進めていったという状況になります。

おかげさまで追加助成の効果もございましたので、なかなか処理が進まない方々については、これをてこにして処理を進めてきたという状況になります。来年も引き続き、助成金はなくなりますけれども、また自治体の方々と一緒になって支援をいただきながら進めていきたいと考えています。

○委員長 多分掘り起こしのところが一番難しい話で、実際は事業は終わっているのです。終わっていながら、この前の環境衛生の委員会でも、それでも新たに見つが出てくるという事例が出てきて、ここをどうしようかというのは、環境省の委員会のほうでどうするかというのは今後検討されるということのようです。私はその場で発言して、決して東京事務所がそれを受け入れることはないよと、個人的な意見としては、この委員会の委員長としては、そういうことを言わざるを得ないと申し上げておきました。そこはかなり難しい話だろうと思います。これはコロナだけではなくて、実態的に北九の経験を踏まえて、大分掘り起こしの作業のスキルが上がっていると、スピード化できているだろうと思いますけれども、どうしても残っているところは出てくるのだろうなと思っています。

●環境 補足で、JESCOさんのほうでいろいろと未登録物件とかいろいろな部分で自治体さんの動向を交えてやっていただきましたけれども、単にJESCOさんの見えないところで掘り起こしのデータから自治体さんが動いている部分は、コロナ時代であっても、やはりできる限り、先方の情報を得ながら委託事業で外注さんを使ったり、自分たちで持ち回りで現場に行ったりと、かなり工夫をされてやっておりますので、当事務所のほうは30自治体持っております、そのうちの16自治体が今回、東京PCBの施設と関係していると思うのですが、やはりいろいろな努力をしながらやっておりますので、その分だけ補足させていただきます。

○委員長 そこら辺のところは随分努力をされているというのは十分理解しておりますけれども、それでも及ばない部分がどうしても起こるだろう、可能性はあるだろうということでございます。

【議題3】2020年度設備保全実施項目と長期保全計画に基づく2011年度設備保全予定項目
資料3に基づき JESCO より説明、質疑応答があった。主な意見は以下の通り。

○委員長 別紙1のところでは今年度の計画が出てきていますよね。この中で20年度に実施ができなかった分について、21年度と一緒にやりますよということなのですが、あまりコロナの状況が万全に変わってきているわけではないので、2021年度については、そこら辺の状況は十分踏まえた形で計画をつくっていると考えてよろしいですか。

●JESCO 2021年度、いろいろな経験を踏まえて、あと残すところに対しての対応で計画しております。

○委員長 多分昨年度起こったような事故が、だんだん後ろになっていけばいくほど、そういう事故が起こると怖いので、点検というのは事故をこれから起こしてはならないというぐらいの感じで十分に、過剰ではないと言ってもいいぐらいの点検をしていただく必要があると思っているのです。掘り起こしの話も不確かさが残りますし、そういうものはできるだけ努力をしていった結果、どうしてもということはやむを得ないということがあるかと思いますが、そこら辺がおろそかになってしまうと困るので、この保全計画というのも、これは事業部会のほうで審議をいただいて議論していただいた内容だろうと思いますけれども、環境安全委員会のほうとしては、そこら辺は念には念を入れて、十分精査して点検をしていただくということをお願いしておきたいと思います。

○委員 今、委員長からも御発言がありましたように、先ほど御説明ありました昨年度の蒸気漏えいのトラブルがあったということで、これまで御説明あったとおり、それに応じてこれまで点検の予定に入っていなかったところも点検に加えられているということで、もともと2021年度に予定されていたものに加えて、昨年度のトラブルを受けて点検作業が増えている部分もあるかなと思うのです。

ざっくり、平年度で予定していた点検の工数に比べて、昨年度のトラブルに対応したものを含めて、例年10やっていたとすると、2021年度というのは大体どのぐらいの数字になるのか、やはり10の中で優先度を置いてやらざるを得ないのか、あるいは点検の工数といいますか。そこにかける人数なり予算なりを増やして対応していただけるということなのか、いろいろ制約がおりの中なのでありますけれども、やはり再発などということはあるわけではないわけでありまして、そういった点での力の入れ方というのは非常に難しい御判断になるかと思いますが、そのあたり、なかなか数字でお答えいただきにくいところもあるかなと思いますけれども、あえて厳し目の質問を投げさせていただきます。

●JESCO 10月10日の蒸気漏れの影響を踏まえて点検範囲を増やすというのは、どれぐらいのボリュームかという、相対的に数字もなかなか言いづらいのですが、資料1のほうでも言いましたが、100℃以上温度がかかってというところは必ずやろうとか、そういった取組で今5月、6月の定期点検に向けて、今メーカーとやり取りをしております。その中で、配管の長さにして50メートルぐらいのものを対象にできるか、できないかとか、今取り組んでいるところになります。割合ではうまく表現はできませんが、定性的にはここはやるといったところを星取り表で掲げてお

りますので、そこについてもれなくやりたいと取り組んでいるところになります。

○委員 大変難しいところだと思うのですが、同じトラブルを再発させてはまずいということで、当然そこに力を入れられると思うのですが、やはり限られた工数なりをそちらに割いてしまうことによって、それ以外の部分に手が回らないということで、そちらのほうで何かあると、これはこれでまた非常に困るわけです。

どうしても、やはり先ほど委員長がおっしゃったようなことに応えていくためには、ある種、やはり総量として増やさないことには追いつかない部分があるかと思います。ただ、それもあるいろいろな制約の中でということで大変難しいと思いますけれども、今回、昨年度トラブルがあったところについては、しっかり優先度をつけて点検をされていると伺っておりますし、そういう意味では、それ以外のところについてもなかなか優先度のつけ方というのは大変難しいところだと思いますけれども、ぜひそのあたりをよく見極めながら進めていただければと思います。ありがとうございます。

●JESCO 従来の点検項目に影響しないように、しっかり今までやれていなかったところもプラスに対応したいと考えております。

○委員長 事務局も当然そこら辺のところを十分御承知の上だろうと思いますけれども、あえて念を押した形で申し上げて申し訳ないのですが、ぜひとも最終ゴールの直前でこけたりしないようにしたいという、そういう思いで発言させていただいておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○委員 前回、書面開催だったので、私は委員の意見として、地元として令和4年度末、つまり2020年度末の処理期限までに確実にこの処理が終わるということが、本区としては最大の関心事だということをお話しさせていただきました。

それに関連して、今日の資料の2の長期処理計画の最後のページなのですが、6番の東京事業エリア及び東京事業所におけるPCB分解処理、純PCB換算の今後の計画という中で、2022年度、つまり令和4年度で計画処理完了期限を迎えるが、超小型コンデンサー及び安定器の処理を依頼する北海道事業所の云々で、2033年までの計画的処理期限となっている表でも2023年度の欄を設けてあるのです。その前に、今後の計画を表18と19に示すとあるのだけれども、まず、この表18と19はどこにあるのですか。それと、どう見ても2023年度、北海道事業所で超小型コンデンサー、安定器の処理をお願いするとなっているのですが、2023年度予定している欄がどこにもないので、この点をお答えください。これは表8と表9の間違いですか。

●JESCO 御指摘いただいた部分は分かります。23年度に欄を設けているというところについて、私が適切に答えられませんでした。表の10であれば2022年度、令和4年度までしか東京事業所は処理を行いませんので、そこは。

○委員 それは分かっています。北海道で23年度にやる、その北海道の欄はどこにあるのですかと聞いているのと、表18と19はどこにあるのですかと聞いているのです。表8と9の間違いではないのですかと聞いている。

●JESCO 申し訳ありません。表18、19は間違えております。表8と9というわけでもありません。まず、表18、19というのは文章が古いものが載せておりまして、全くの間違いになります。あと、北海道につきまして、極小コンデンサーにつきましては、プラズマのほうで安定器とともに処理します。そこについては、特にここでは表現をしておりませんので、これについても本文のほうの書き方がちょっと間違っておりました。

○委員長 17ページのところに表18、19があるけれども、その18、19は存在しないということですね。そこら辺のところを事務局で、多分これは事業部会での資料から抜粋をしているというか、整理をしてつくられたもので、そちらの文章がそのまま残ってしまっているのではないかなと類推されるので、もう一回、事務局のほうで精査をしてください。そもそもこれに該当するのはここにあるのですかということです。あるいはあるのであれば、例えば表11、12にしてその後ろにつけた形、18ページに表11と12でつけ足した資料を再度つくって、説明をつけて委員の先生方にお送りください。

●JESCO 6ポツのこの文章についての記載、または必要な表について、確認して不足のところについては追記させていただきます。

○委員 今日、事故の話、それから、先ほど専門家の先生から掘り起こしの問題も提起されましたけれども、繰り返しますけれども、地元区としてはとにかく2022年度、令和4年までに確実にこの処理を終わらせるということで、我々はやはり住民代表として来ているわけですので、この記述は非常に大事なところだと思うのです。ですから、しっかりした資料を出してください。それと、北海道にお願いする分も含めて、こういう記述がある以上、よそにお願いする分がどのくらいあるのかというのもきちんと、それが令和5年までかかるわけでしょう。そういうものも含めてきちんと資料を出してください。よろしくお願いいたします。

●JESCO 分かりました。

○委員長 委員の言われたことは、私もその思いで先ほど申し上げました。環境省の委員会で掘り起こしで残ったのはどうするのかという、今、環境省の委員会で議論しているところですが、そこについては東京事業所では延ばしてやるなどということを考えられないということをお願いしてきています。今のところ環境省の委員会でどう議論されるのかも分からないのですけれども、また、その委員会で出てくると思います。そこに私はオブザーバーみたいな形で出ますので、再度意思表示をするつもりではおりますけれども、正規の委員ではないので決定権はないという状況です。

そういう意味ではいろいろな状況が分からない、不確定な要素というのはどうしても残ります。不確定な要素があったらそれをどうするかということは現実問題として起こっている状況なので、これについては国のほうも議論します。国の委員会のほうで議論しますということを言っています。それから、そのときに各事業所にツケを回すようなことは絶対してくれるなど、どこでやるかどうかは国の責任で考えてくれと申し上げたのが、私が環境省の委員会で発言した趣旨なのですけれども、委員が言うように地元としては当然そのとおりだろうと私も理解をしていますし、環境安全委員会の委員長をやっている立場から、そういう主張をせざるを得ないだろうということでもあります。

では、その資料についてはしっかり直してください。